

第52回 埼玉全国舞踊コンクール

(モダンダンス部門)

2019年8月16日(金)～21日(水) 埼玉会館 大ホール

主催◎埼玉県舞踊協会 共催◎(公財)さいたま市文化振興事業団
 後援◎埼玉県/埼玉県議会/埼玉県教育委員会/ (一社)埼玉県文化団体連合会
 朝日新聞さいたま総局/埼玉新聞社/東京新聞
 毎日新聞さいたま支局/読売新聞さいたま支局/テレビ埼玉/チャコット(株)
 (一社)現代舞踊協会/ (公社)日本バレエ協会/ (公財)橋秋水子記念財団
 撮影◎山口フォトアート(有) 松本和幸



モダンダンス

■1部大人の部■

第1位	埼玉県舞踊協会賞 県知事賞・橋秋水子賞・藤井公賞 (一社)現代舞踊協会賞	丹波 南美
第2位	1 埼玉県舞踊協会賞 県議会議長賞	山之口理香子
第2位	2 埼玉県舞踊協会賞 県教育長賞	富田奈保子
第3位	1 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	岸野 奈央
第3位	2 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	杉原 萌
第3位	3 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	内田奈央子
朝日新聞社賞	鈴木 泰羽	
埼玉新聞社賞	村松 千花	
テレビ埼玉賞	足立 真珠	
東京新聞賞	荒瀬 来瞳	
毎日新聞社賞	重野ひかり	
読売新聞社賞	近藤みどり	
チャコット賞	伊藤 有美	

■ジュニアの部■

第1位	埼玉県舞踊協会賞 県知事賞・橋秋水子賞・津田郁子賞 (一社)現代舞踊協会賞	三木 麻衣
第2位	1 埼玉県舞踊協会賞 県議会議長賞	岩永 明希
第2位	2 埼玉県舞踊協会賞 県教育長賞	伊與田稀日
第3位	1 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	小峰 珀良
第3位	2 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	長澤ほのか
第3位	3 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	西山由里子
朝日新聞社賞	寺澤 亜海	
埼玉新聞社賞	吉岡あおい	
テレビ埼玉賞	平塚 達也	
東京新聞賞	星野 由衣	
毎日新聞社賞	高野 凛	
読売新聞社賞	星 瑞奈	
チャコット賞	高橋あかね	

■2部児童の部■

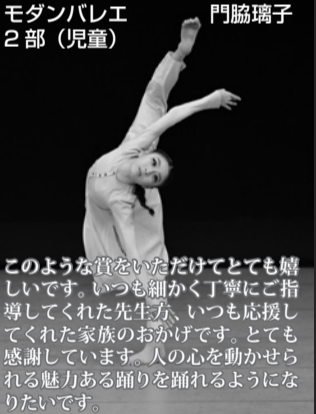
第1位	埼玉県舞踊協会賞 県知事賞・橋秋水子賞・津田郁子賞 (一社)現代舞踊協会賞	門脇 璃子
第2位	1 埼玉県舞踊協会賞 県議会議長賞	沖本 真季
第2位	2 埼玉県舞踊協会賞 県教育長賞	西山叶和子
第3位	1 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	岡野 ころ
第3位	2 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	関根 亜子
第3位	3 埼玉県舞踊協会賞 (一社)県文化団体連合会会長賞	花音 心美
朝日新聞社賞	中西 葵	
埼玉新聞社賞	東川 舞花	
テレビ埼玉賞	松野 一愛	
東京新聞賞	宮下 夏鈴	
毎日新聞社賞	高田えみり	
読売新聞社賞	松田 美唯	
チャコット賞	佐藤 立恩	



この度は、名誉のある賞を頂き大変光栄に思っております。素晴らしい作品を指導してくださった先生に感謝し、これからは慰められるダンサーと成るため精進して参ります。



この度は埼玉全国舞踊コンクールで第1位という素晴らしい賞を頂いたことを大変嬉しく思います。支えて下さった全ての方々へ感謝しております。今後も作品と自分の踊りに向き合いながら、日々精進して参ります。



このような賞をいただけるだけでも嬉しいですが、いつも細かく丁寧にご指導してくれた先生方、いつも応援してくれた家族のおかげです。とても感謝しています。人の心を動かせる魅力ある踊りを踊れるようになります。

評 モダンダンス1部(成人)

舞踊評論家 山野博大
 「モダンダンス成人部門決選を審査して」

埼玉全国舞踊コンクールのモダンダンス成人部門決選を、坂本秀子、井上恵美子、黒田育世、Zuigo Coco、中村友美、上原尚美、藤井利子の皆さんと共に審査した。九十四本のエントリーがあり、その中から七十本が決選に進んだ。決選出場者はみな優れた身体能力の持ち主で、多くの表現技術を会得し、それをみごとに使いこなしていた。上位に名を連ねた人たちは、まがいなく日本の現代舞踊の将来を担っていかれると確信した。

人類は、まだ言語をもつ以前から他人に自分の意思を伝えるために、からだの動きを使った。優れた身体能力の持ち主は、より多くのことを伝えることができた。舞踊が、まずからだを鍛えることからはじまるのは、原初の人類の、他人により多くのことを詳細に伝えたいという意志を受け継いでいるからだと思ふ。肉体を使って、他人に意志を伝える時には、顔の表情や四肢の動きが使われることが多い。伝達の距離が遠くなる、からだの動きが主力になる、そんな時に使われる手足の動きは、鍛えられた体幹の生み出すパワーによって増幅される。舞踊芸術は、そのような人類

パレエ・モダンダンスのジャンルを超えて集う創造の場
 令和2年度
第46回ステージI
 はつらつとした若者による創造・活動の祭典にご期待を!

会場/彩の国さいたま芸術劇場 小ホール
 日時/2020年6月13日(土)・14日(日)

伝統と実績を踏まえながら進化を目指しリニューアル!
 ステージI Hope賞・ステージI Performance賞を設定し
 創作活動をサポート!

原初の事情を受け継いで発展してきたと思ふ。今回の審査員には、日本の現代舞踊を代表するいつもの顔ぶれの他に、異なる分野で活躍する人たちも交じっていた。価値判断がいくぶんずれて、今までと異なる結果が出るのではないかと心配する人がいたかもしれない。しかし、そんなことはなかった。動きにどれだけのパワーがあり、それがどれだけの多きことを伝えてくるかという人類が太古からもっている基準によって採点が行われたようだった。舞踊の上手下手は、あまり踊りを知らない人にもなんとなく分かるもの。例えば、日本のことをよく知っていない外国人にとっても、日本舞踊を見れば、その良さ悪しを聞いてみても、その判断がほとんど間違っていないのでびつくりする。私も遠い国の民族舞踊などを初めて見たときに、それを踊る人ひとりひとりの技術を評価して間違っているがなかったという経験をしている。舞踊の基本のところは、専門家ではなくても意外に正しく判断できるものらしい。これを埼玉全国舞踊コンクールの主催者は知っていて、審査員に異分野の新しい人々を加えることにしたのかもしれない。来年の決選の審査員ははたしてどんな顔ぶれになるのだろうか?

二年前のコンクール審査で出会った「サブライズ」について記したい。

まずは、二一〇名の決選出場者のレベルが総じて高かったこと。これまでわたしは種々の年代の審査を申しつかけてきたが、今回ほど、出場者全体の技術が充実していたことはなかったように思う。上位入賞者だけでなく、賞に届かなかった出場者であっても、技術面での不安が少なく、日頃の意念が凝古ぶりをうかがわれた。出場者ならびに指導者の努力に対して、大いに敬意を表したい。

二つ目のサブライズは、出場者が舞台経験の必ずしも豊富ではない中学生・高校生であることを感じさせない、よく踊りこまれた演技が多かったことだ。三分という

エッセイ

谷 乃梨絵

平成から令和となった今年の夏も猛暑、エコロジーを語りながらも身体が大事と危機を避け、3姉妹の愛犬と共に冷房の空間にどっぷり浸かる。散歩にも行けずだらしなく寝る犬と仲よく過ごす怠惰な生活。結果、汗をかく機能は衰え、最適な身体調整がストイックに出来ない自分に落ち込む。日々の癒やしはこの3姉妹犬、この犬たちのために創造に、社会貢献に、後進の指導に頑張ろうと毎日誓いを立てたらよいのだが…。週に一度、長男が孫5歳、3歳を連れてスタジオにやってくる。アメとムチのアメで始めさせたレッスン。レッスンが始まると途端に私を「先生!」と呼び、長男も2歳で私を「先生」と呼んでいたことを思い出す、笑える。しかし、そう呼ばれると私も先生モードになり行儀態度などは他の生徒より厳しくなってしまう。先日のレッスンでも「もう来なくていい」と生徒にはNGの言葉が孫にでた。結果「ばあばは怖い、嫌い」にならないかビクビク。優しく大好きなばあばでいたいのである。次来たとき、何を言ってあげようかとアメを考えている情けない自分がある。二世三世を立派に育てている方々がもはや「神」に思えた。ふと、隣で大の字に寝ている無防備で平和な犬と目が合ってしまう。「楽に生きようぜ!」と言われたように思うのはやっぱり自分に相当甘いということだろうか。犬は気楽だ。あなた達のためにもこれからは頑張るからね。でも、踊ってはくれないらしい。

評

モダンダンス2部(児童)
 舞踊評論家 児玉初穂

今年は一〇〇組の児童の皆さんを審査致しました。低学年から高学年まで年齢差があるため、幅広い傾向の作品を見ることになりました。低学年では、子供らしさを強調し、演技を重

見開かされた、長く記憶にとどまるだろう作品に出会うことができ。これが三つ目のサブライズである。今度も、コンクールを機に、伸びやかな表現が生み出されることを期待を寄せている。

で、良し悪しは言えませんが、いざれにしても、指導者の美意識と児童の年齢、個性が合致したときには、調和のとれた「作品」へと昇華します。師弟の絆を感じさせる幸福な瞬間でした。

すでに個性を確立し、「自分の踊りを踊っている児童も見受けられました。」

1位の門脇璃子さんの踊りからは、音楽が聞こえました。次の芳賀心春さんの踊りには魂を感じました。また入賞には至りませんでしたが、橋ヶ谷留々佳さんの踊りからも音楽を聞くことができました。児童の個性を伸ばす指導者の懐の深さを感じます。他に、韓国舞踊の要素を取り入れた星友月さんの求心的な踊り(埼玉県舞踊協会奨励賞)、稲田嘉輝さんのシャープで力強い踊り(同)も印象に残りました。

審査当日の講評では、将来のダンス界を担う児童の皆さんに、こうなって欲しいという希望を話しました。モダンダンスのスタイルを受け継いでいる人々には、今後参加するであろう作品の振付を深く理解し、その作品がどのような作品かを示せるダンサーになって欲しい。すでに「自分の踊り」を踊っている人々には、ずっと自分を作り続けて、50代、60代になっても踊りたいと思っている人々には、自分の世界観を築いて欲しい。音楽、美術、文学の東西古典に触れ、時空を超えた人間の営みを養分にして、自分にしか作れない、こうでなければ生きていけないと思ってしまう。以上を述べてみました。素晴らしいダンサー、振付家の誕生を期待しています。

協会員催し物のご案内
 2019年10月〜2020年4月

川越市バレエ連盟10周年記念公演
 ◎11/16(土) ウェスタ川越 大ホール
 ◎11/17(土) 伊藤京子
 ◎090(1650)5338

文月玲バレエスタジオ第18回発表会
 ◎12/15(日) 16:00
 熊谷文化創造館さくらめいと太陽のホール
 ◎048(527)5445 文月 玲

マンナバレエスタジオ発表会
 ◎12/15(日) 16:30
 ◎03(3902)9830 マンナバレエ
 ◎2020/4/29(水) 17:00
 アミ・ドゥ・バレエ・スプリングコンサート
 ◎03(5850)5884 華 美保

伸びゆく埼玉の子どもたちによる、合同発表会。
第53回 パレエ・モダンダンスフェスティバル
 (会場) 埼玉会館 大ホール (入場無料) (日時) 2020.3.1(日)
 研究所との競演発表で、研究しあって向上を図ることを目的に実施しています。

- ① 井上美代子パレエスタジオ
- ② パレエスタジオ レッツ(和泉伽甫留)
- ③ 川名今朝美モダンバレエスタジオ
- ④ 705 Dance Lab (菊地尚子)
- ⑤ 窪内絹子モダンバレエスタジオ
- ⑥ 和加枝舞踊研究所(小林和加枝)
- ⑦ 谷 乃梨絵モダンダンススタジオ
- ⑧ マヤパレエスタジオ(原島マヤ)
- ⑨ バレエ団ピッコロ附属研究所(松崎すみ子)
- ⑩ 藤井・上原モダンバレエスタジオ
- ⑪ 文月玲バレエスタジオ
- ⑫ Y's Dance Company (山口弓貴子)
- ⑬ 吉田久木子モダンバレエ研究所 (五十音順、出演順ではありません)

◎編集後記
 2019年5月、「平成」から新年号「令和」になりました。昭和・平成と歴史は続いていきます。今年には異常気象による猛暑日が続く、大規模停電も起きました。そして、消費税変更で軽減税率制度が始まりました。そんな変わりゆく時代の中も、埼玉県舞踊協会は変わらなく、埼玉県全国舞踊コンクール、コレオグラフィアの日(18日)と行事を進めています。これからも皆様のご協力をお願いします。

広報部 笠原千均子
 山本 教子
 弓削多摩子